

## 論文内容の要旨

報告番号	空欄	氏名	後藤 晴栄
A retrospective study of factors associated with persistent delirium (和訳;せん妄の遷延化に関連する因子についての後方視的検討)			

### 論文内容の要旨

#### 背景

せん妄は様々な問題を引き起こすことが知られている。せん妄の発症に関連する危険因子については多く報告されているが、せん妄の遷延化に関連する報告は稀である。本研究は、せん妄の遷延化に関連する危険因子を同定することを目的としている。

#### 方法

奈良県総合医療センターに入院中の患者で、2014年10月から2017年9月までの期間に、精神科診察依頼のあった573例を対象とした。せん妄の遷延は14日以上持続したものと定義した。後方視研究は、患者の記録をもとに行った。様々な背景要因とせん妄遷延化との関連を統計学的に解析した。

#### 結果

573例の入院患者のうち、295例がせん妄と診断された。46例がせん妄遷延群で、181例がせん妄非遷延群であった。多変量ロジスティック回帰分析では、男性、オピオイド鎮痛薬使用、非オピオイド鎮痛薬使用、血清ナトリウム値低値がないことが、有意にかつ独立してせん妄遷延化と関連した。ラメルテオンあるいはトラゾドンの使用は、各々単独の使用では有意差はなかったが、どちらか一方の使用がせん妄遷延化との関連に有意傾向がみられた。

#### 結語

我々は、一般病院入院患者において、男性と鎮痛薬使用がせん妄遷延化と関連したことをはじめて報告した。しかし本研究は、ケースコントロールスタディでありバイアスを含むため、今後コホート研究や介入研究が必要である。また、鎮痛薬の使用の背景にある‘痛みの程度’を明らかにするため、さらなる調査が必要である。